

重要な会計方針

1. 運営費交付金収益の計上基準

費用進行基準を採用しております。

2. 減価償却の会計処理方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	2年～42年
構築物	2年～12年
車両運搬具	2年～4年
工具器具備品	2年～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

ソフトウェア	2年～5年
--------	-------

また、特定の償却資産(独立行政法人会計基準第 86)の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示しております。

3. 引当金の計上基準

賞与引当金

役員及び職員等に対する賞与の支払にあてるため、将来の支払見込額のうち当期に発生した額を計上しております。

ただし、当該支払見込額のうち、運営費交付金で財源措置される額については、引当金を計上しておりません。

4. 退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準

役員及び職員等への退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づいて計上しております。

ただし、退職一時金及び厚生年金基金から支給される年金給付に係る引当金のうち、運営費交付金により財源措置される額については、引当金を計上しておりません。

数理計算上の差異は、発生事業年度に全額費用処理しております。

なお、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、会計基準第 38 に基づき計算された退職給付引当金の当期増加額を計上しております。

5. 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券

償却原価法(定額法)によっております。

6. 未収財源措置予定額の計上根拠及び計上基準

当期に発生した事業費のうち、翌事業年度の運営費交付金で財源措置されるもので、すでに予算が承認されている額について計上しております。

7. 行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

政府出資又は地方公共団体出資等の機会費用の計算に使用した利率

10年利付国債の平成17年3月末利回りを参考に、1.32%で計算しております。

8. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

9. その他の重要な事項

(1) 信託資産の評価基準及び評価方法

時価法によっております。

(2) 責任準備金の計上根拠及び計上基準

平成16事業年度末日現在在籍の共済契約者に対する将来の共済金等の支払いに備えるため、独立行政法人中小企業基盤整備機構の業務(産業基盤整備業務を除く。)に係る業務運営、財務及び会計に関する省令(平成16年6月30日経済産業省令第74号)第18条の規定により、経済産業大臣の定めるところ(独立行政法人中小企業基盤整備機構の責任準備金の積立てについて、平成16・12・21中第2号)による金額を計上しております。

注記事項

[貸借対照表関係]

1. 担保提供資産

(1) 担保に供している資産は次の通りであります。

投資有価証券	2,460,000,000 円
--------	-----------------

上記のほか、有価証券貸借担保受入金の担保として、有価証券及び投資有価証券 1,833,822,503,632 円を差し入れております。

(2) 上記に対応する債務は当座借越極度額 1,803,000,000 円であり、期末借入残高はありません。

2. 担保受入金融資産

消費貸借により借り入れた有価証券は 715,400,000,000 円であります。

3. 保証債務等

独立行政法人都市再生機構が承継した地域振興整備債券 130,980,000,000 円について、連帯して債務を負っております。

4. 貸付有価証券担保預り運用資産の内訳は次の通りであります。

差入担保金	731,527,934,423 円
譲渡性預金	180,000,000,000 円
銀行勘定貸	1,650,124,712 円
コールローン	60,887,000,000 円
合計	974,065,059,135 円

5. 運営費交付金から充当されるべき退職給付引当金の見積額

1,397,412,383 円

[損益計算書関係]

1. その他経営環境対応業務費の内訳は、次のとおりであります。

前納減額金	437,008,280 円
雑費用	2,060,630,185 円
付加保険料	562,442,047 円
借入金利息	24,776,663 円
業務委託費	791,471,015 円

事務代行手数料	1,336,475,679 円
代理店事務手数料	46,868,193 円
口座振替手数料	141,649,088 円
嘱託員給	118,882,965 円
臨時職員給与	4,561,557 円
福利厚生費	72,764 円
旅費交通費	11,785,766 円
業務委託費・報酬費	509,745,528 円
通信運搬費	345,622,642 円
賃借料	442,573,161 円
保険料	240,492 円
水道光熱費	11,647,088 円
保守修繕費	23,024,211 円
消耗品・備品費	27,994,875 円
雑費	193,130,604 円
諸謝金	4,140,007 円
印刷製本費	175,561,175 円
合計	7,270,303,985 円

2. その他一般管理費の内訳は、次のとおりであります。

嘱託員給	1,544,685 円
臨時職員給与	123,886 円
福利厚生費	2,935,741 円
旅費交通費	6,701,321 円
通信運搬費	5,433,933 円
保険料	55,960 円
水道光熱費	1,680,353 円
保守修繕費	4,518,230 円
租税公課	29,478 円
消耗品・備品費	3,546,338 円
雑費	10,115,257 円
研修活動費	103,427 円
諸謝金	703,275 円
印刷製本費	2,400,906 円
合計	39,892,790 円

[キャッシュ・フロー計算書関係]

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	158,788,017,997 円
定期預金	138,000,000,000 円
資金期末残高	20,788,017,997 円

[行政サービス実施コスト計算書関係]

引当外退職給付増加見積額 5,874,515 円の内訳

国からの出向職員に係るもの	2,794,546 円
運営費交付金から充当されるべき退職給付引当金の増加見積額	3,079,969 円
引当外退職給付増加見積額	5,874,515 円

[退職給付関係]

1. 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として、厚生年金基金制度及び退職一時金制度を採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

退職給付債務	238,501,363 円
年金資産	54,583,862 円
未積立退職給付債務 (+)	183,917,501 円
未認識数理計算上の差異	0 円
未認識過去勤務債務	0 円
退職給付引当金 (+ +)	183,917,501 円

3. 退職給付費用に関する事項

勤務費用	7,399,700 円
利息費用	3,614,483 円
期待運用収益	1,206,512 円

数理計算上の差異の費用処理額	2,205,779 円
過去勤務債務の費用処理額	0 円
退職手当	58,386,207 円
退職給付費用	65,988,099 円
(+ + + + +)	

(注1) 勤務費用から、厚生年金基金に対する役職員等拠出額を控除しております。

(注2) 数理計算上の差異の費用処理額には、勘定間の人員異動に伴う増減も含まれております。

(注3) 退職手当は、引当外退職給付に係る当期の支給額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付見込額の期間按分方法	期間定額基準
割引率	2.0%
期待運用収益率	2.1%
数理計算上の差異の処理年数	発生事業年度に全額費用処理

重要な債務負担行為

翌事業年度以降に支払いを予定している債務負担行為はありません。

重要な後発事象

該当ありません。

固有の表示科目の内容

代理店勘定

当該事業年度に属する収納金で代理店において収納済みであるが、機構において収納未済となっているものを整理しております。